

授業概要

この授業では、日本最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』（以下、古今集）について講義する。今でこそピンとこないかもしれないが、平安中期から幕末までの約千年もの間、日本文化の根幹には『古今集』があった。時間の認識や花鳥風月に対する意識など、現代の我々の中にも息づく美的感覚は長い年月をかけて形成されていったのだが、そういった感覚の源は、元をたどれば『古今集』に行き着く。そうした『古今集』的美意識は（近現代文学も含め）数多の日本文学に影響を及ぼした。

この授業を古典文学を学ぶ第一歩とするために、基礎的事項から享受のあり方までを講義する。日本の文学・文化に興味を持っている人は、ぜひ受講してほしい。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	日本語を書く文字
第 3 回	和歌のレトリック① 掛詞・縁語
第 4 回	和歌のレトリック② 枕詞・序詞・見立て
第 5 回	『古今集』の和歌史① 神代
第 6 回	『古今集』の和歌史② 万葉集
第 7 回	『古今集』の〈古〉と〈今〉① 六歌仙時代
第 8 回	『古今集』の〈古〉と〈今〉② 撰者時代
第 9 回	『古今集』の撰者と歌
第 10 回	『古今集』の構造
第 11 回	『古今集』と中古文学
第 12 回	『古今集』と中世文学
第 13 回	『古今集』と近世文学
第 14 回	『古今集』と近現代
第 15 回	まとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

- ① 『古今集』についての基礎知識を理解することができる。
- ② 『古今集』の世界観や享受のあり方を通じて、日本文化への興味を深めることができる。

履修上の注意

わからない内容については、自分で調べるなどの復習を行ってほしい。なお、ところどころで秋期に開講する日本文学史概論（古典）とリンクするので、合わせて受講すると復習しやすい。

予習・復習

不明な点については辞書・事典を用いて調査する。授業中に参考文献を伝えるので、図書館等を利用して目を通す。

評価方法

質問への答えを含めた授業態度（20%）・定期試験（80%）の結果で判断する。

テキスト

授業中に適宜プリントを配布する。強制はしないが、『古今和歌集』の文庫本を持っているとより理解が深まるので推奨したい（小町谷照彦『古今和歌集』（ちくま学芸文庫）がオススメ）。なお、教科書指定はしないが、下記の文献は有用である。

- ① 鈴木宏子『王朝和歌の想像力』（笠間書院）／② 同『「古今和歌集」の創造力』（NHKブックス）／③ ハルオ・シラネ『四季の創造』（角川選書）／④ 小沢正夫『古今集の世界 増補版』（塙選書）／⑤ 新井栄蔵『古今集の世界』（世界思想社）／⑥ 新編日本古典文学全集・新日本古典文学大系・新潮日本古典文学集成・和歌文学大系・角川ソフィア文庫など『古今和歌集』注釈書類。